

# マルキンだより



畜産PR大使「おーいたん」

公益社団法人 大分県畜産協会 TEL:097-545-6594  
FAX:097-554-4049

第105号

## 令和元年10月分交付金概算払単価公表

肉用牛肥育経営安定交付金制度の令和元年10月分の交付金概算払単価が公表されましたので、概算払いを行います。

肉専用種については、36,478.4円・乳用種については、44,722.4円 交雑種については11,271.2の交付となります。

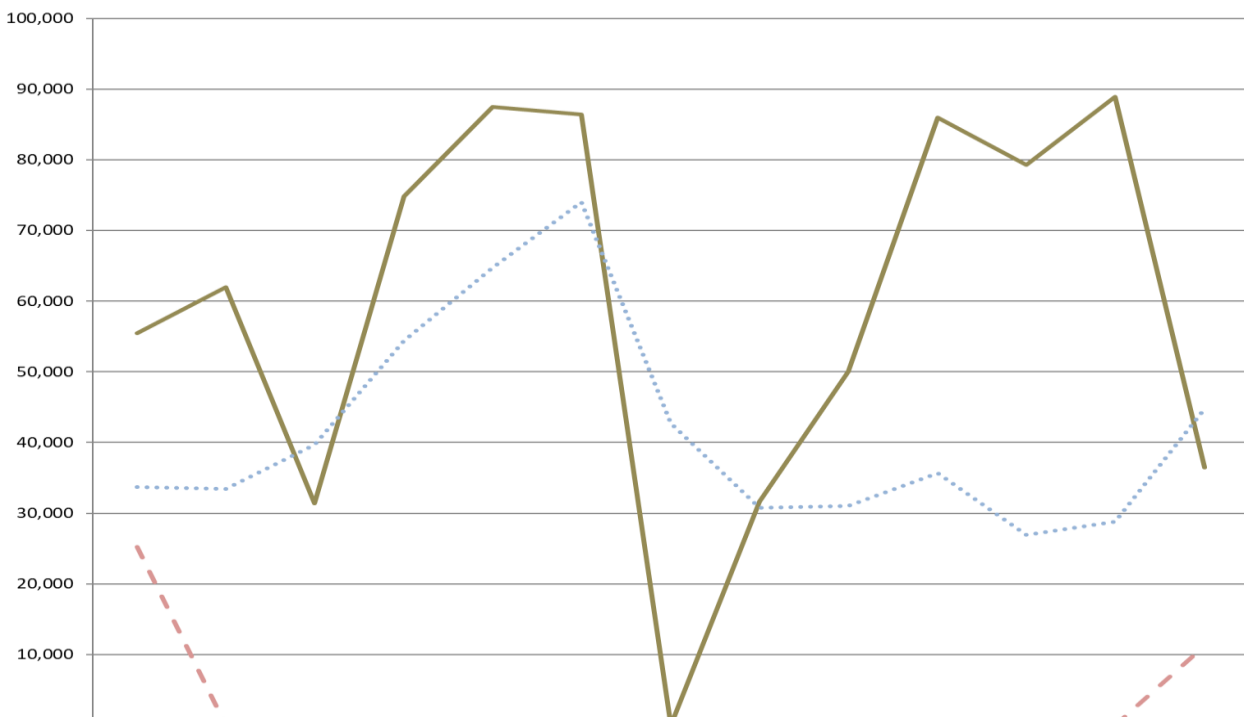
詳細につきましては、肉用牛肥育経営安定交付金制度の交付金単価について【令和元年10月分】(独立行政法人農畜産業振興機構発行)をご覧ください。

### トピックス

- 令和元年10月分の単価(概算)が公表されました。
- 10月分の交付金交付は、12月25日(水)を予定しております。

交付金発動状況

単位:円



	10月	11月	12月	H31.1月	2月	3月	4月	R1.5月	6月	7月	8月	9月	10月
— 肉専用種	55,500	62,000	31,400	74,840.4	87,491.7	86,398.2	0.0	31,698.0	50,013.0	85,923.9	79,301.7	88,938.9	36,478.4
- 交雑種	25,200	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11,271.2
... 乳用種	33,700	33,400	39,700	54,378.9	64,769.4	74,024.1	42,722.1	30,806.1	31,029.3	35,702.1	26,905.5	28,826.1	44,722.4

## 牛マルキン事業に関するホームページ

★公益社団法人 大分県畜産協会 <http://oita.lin.gr.jp/>

当協会のホームページです。マルキン情報の他、市場結果、種雄牛情報等も掲載しております。

★独立行政法人 農畜産業振興機構 [https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin\\_00002.html](https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin_00002.html)

補填金単価の公表の他、単価算定に関する各種参考資料等が掲載されております。

## ★畜産物の市況展望【牛肉】

### ～和牛は伸び悩み、交雑牛に引き合い集中～

2019年11月の牛枝価格は、消費増税や台風19号による消費低迷を引きずりながらも、気温が低下して本格的に鍋物商材が動き始め、再び保ち直してきた。ただ、和牛よりも交雑牛に需要が集中する傾向が続いており、12月も和牛は盛り上がり欠く展開を予想する声も出ている。

10月の牛枝肉価格は、和牛は去勢A5が前月比55円安の2,690円（前月同月比199円安）と、2015年以來の2,700円割れとなった。同A4も51円安の2,380円（同164円安）、同A3は16円安の2,180円（同121円安）、同A2は41円安野1,932円（同216円安）と、軒並み下落した。台風19号や増税を背景に外食不振につながり、問屋の在庫過剰感が顕著となった。

同様に交雑牛も、B4で37円安の1,728円（同26円安）、B3が45円安の1,603円4（同7円安）、B2は35円安の1,475円（前年並み）と下げたが、和牛から需要の移行がみられ底堅く、和牛に比べ下げ幅は小さかった。

10～11月にかけては増税と台風が景況感を大幅に悪化させ、高単価品である和牛5、4等級の需要が一気に冷え込み、問屋の荷重感が強まった。その後、気温が低下し本格的に鍋物商材が動き始めたことから、肩ロースが活発化し、枝肉価格は戻したものの、「和牛上物は気軽に消費者の手が届かない商材になりつつあり、年末商戦も交雑牛に引き合いが集中するのでは」（問屋）との見方が少なくない。

量販店でも「100g当たり1,000円を超える和牛を日常使いすることは難しくなっている」（大手量販店）。現在の交雑牛の価格がごちそうの 카테고리 になりつつあり、和牛は縮小し交雑牛の販売を強化する動きは継続しそう。12月商戦も交雑牛、乳去勢、輸入牛を戦略的に強化するチェーンが多いとみられる。

12月は前半こそ年末年始の手当てが活発化するが、全国的に出荷頭数が潤沢とみられ、後半和牛は下振れするとの懸念も出てきた。

交雑牛は需要が強く、高値傾向が続く見通し。和牛去勢A5で2,800～2,900円、A4で2,500円前後、A3で2,300円、交雑種去勢B3で1,750円、B2で1,150円。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌12月号 抜粋）

## ★農場 HACCP 取り組みについて

### ～みらいグローバルファーム株式会社の取り組み～

#### ●農場 HACCP とは？

農場 HACCP は、農場の飼養衛生管理に HACCP の考え方を取り入れたもので、農場の衛生管理を向上させ健康な家畜を生産することにより、畜産物の安全性を向上させるシステム。

#### ●取り組みの動機

認証取得することで、確立された衛生管理体制を運用していることもあり、口蹄疫などの法定伝染病を絶対に発生させてはいけないと考えている。

#### ●導入のメリット

メリットは、子牛生産から肥育まで、一貫経営の規模拡大を進める中で、口蹄疫をはじめとする法定伝染病を絶対に発生させないという意識が各従業員に浸透し、防疫体制の強化が図れたことです。また、eラーニング（農場指導員養成事業への受講）参加や、教育訓練プログラムに沿った教育訓練の実施などにより、人材の効率的育成が図られている。このほか、モニタリングの検証や是正措置、妥当性の検証などにより、食品の安全・安心が担保でき、より高品質で安全な和牛を提供し続ける体制を支えるものになっている。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌12月号 抜粋）

農場 HACCP は、衛生管理、生産性向上、従業員の意識改革など有効な手段として、おすすめしております。是非、つづきの別紙を参照してみてください。



みらいファームグループ みらいグローバルファーム株式会社 (指定番号:牛-102)

みらいグローバルファーム(株) 代表取締役 今福 保留

農場の概要と特色

みらいファームグループは、全国で預託・直営による和牛の肥育事業を展開する『みらいファーム株式会社』、生産から肥育までを行う『みらいグローバルファーム株式会社』、生産から育成までを行う『みらい北海ファーム株式会社』で構成されており、主要生産地は、みらいファーム(株)とみらいグローバルファーム(株)の本店がある南九州です。

みらいグローバルファーム(株)は、宮崎県都城市夏尾町の霧島山系のふもとに位置しており、標高約350mの自然豊かな場所にあります。南九州でありながら、夏は比較的涼しい環境で、母牛3400頭、肥育牛1500頭、総頭数約7300頭を飼育している和牛一貫生産農場です(写真1・2)。

飼養された肥育牛は、月間100頭程度を、伊藤ハムグループのサンキョーミート株式会社(本社:鹿児島県志布志市有明町)に出荷しています。

また、みらいファーム(株)志布志農場へ、肥育素牛として一部を出荷するなど、素牛供給

基地としての役割も担っています。

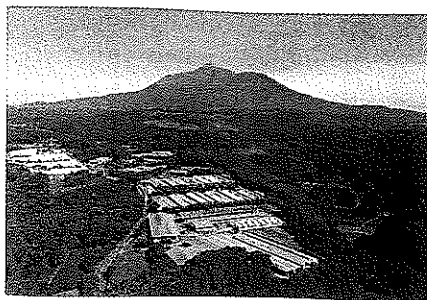
現在、今後の事業拡大に向け、積極的にリクルート活動を行い、人材の採用に努めると同時に、外部研修の拡充を図るなど、人材育成にも力を入れています。

当農場は大きく分けて繁殖・育成・肥育・肥料の4つの部門で構成されており、60人の従業員(外国人研修生を含む)で運営しています。特に若手の従業員が多く在籍しており、平均年齢は34歳です。中でも20歳代の社員の割合が高く、若手社員にも活躍の場が広がっています。就業形態については、夜間勤務は行っておらず、働きやすい環境を整えています。今後も、より働きやすい環境を整える取り組みを実施していきます。

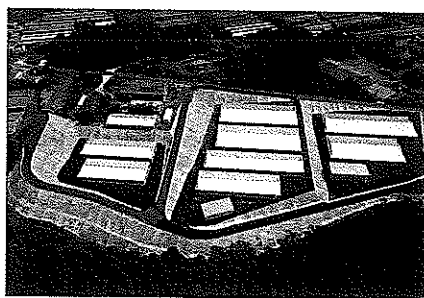
分娩は自然分娩です。母牛は分娩1ヵ月前には分娩舎に移動させ、母牛のエネルギーを高めて難産防止や元気な子牛が生まれるように個別管理を徹底します。

発情発見は、より発情観察力を高めるため、人の「目」をサポートする発情発見装置等のAI活用を推進しています。また、AIを発情発見の補助機能だけにとどめず、収集された

データを有効活用して繁殖成績の向上につなげています。具体的には、各個体情報を登録することにより、必要な最新情報をタイムリーに把握および共有することができ、次への有効な一手につな



(写真1) 農場全景 後ろに霧島山系の高千穂峰を望む



(写真2) 新設された子牛育成舎

げています。従業員の技術とAIの機能を組み合わせ、多頭飼育の環境下でも年1産を可能にしています。

### 農場HACCP 取り組みの動機

当グループの「みらい

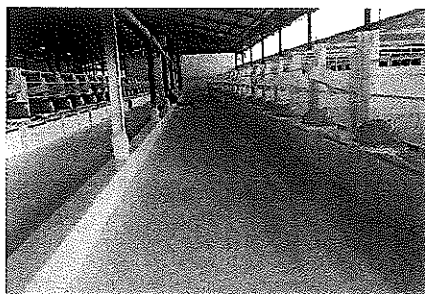
ファーム(株)志布志農場」は、すでに農場HACCPとJGAPを認証取得している農場であり、確立された衛生管理体制を運用していることもあり、口蹄疫などの法定伝染病を絶対に発生させてはいけないという強い思いがあります。

取り組みの経緯として、平成28年12月から毎月1回、取引先である薬品会社やNOSAI担当獣医師を招いて、農場HACCP勉強会を実施してきました。勉強会の実施以後、平成30年3月27日には農場HACCP取得に向けてキックオフ宣言を行い、平成30年12月28日に農場HACCP推進農場の指定を受けました。

### 農場HACCPの取り組み状況

HACCP会議は毎月1回の実施で継続し、薬品会社、家畜保健衛生所、NOSAI都城、その他関係機関の協力のもと、農場HACCP認証基準に基づいて、前回の問題点を改善しながら取り組んでいます(写真3・4)。

現在は危害分析まで終了しており、運用の段階となっています。また、教育プログラムに沿って教育訓練も実施しています。特定のメンバーだけが書類作成や活動をするのではなく、全従業員のスキルアップが重要と考えています。各種セミナーへの積極的参加はもとより、農林水産省家畜生産農場衛生対策事業による農場指導員養成事業(e-ラーニング)講座にも、参加しています。農場



(写真3) カウハッチの水洗い・消毒後の石灰散布状況



(写真4) 生後1ヵ月齢まで個別管理するカウハッチ

HACCP認証の取得だけが目的とならないように、取り組んでいます。

### 農場HACCP導入のメリットなど

農場HACCP導入のメリットは、子牛生産から肥育まで、一貫経営の規模拡大を進める中で、口蹄疫をはじめとする法定伝染病を絶対に発生させないという意識が各従業員に浸透し、防疫体制の強化が図れたことです。またe-ラーニング(農場指導員養成事業への受講)参加や、教育訓練プログラムに沿っての教育訓練の実施などにより、人材の効率的育成が計られています。

このほか、モニタリングの検証や是正処置、妥当性の検証などにより、食品の安全・安心が担保でき、より高品質で安全な和牛を提供し続ける体制を、支えるものになっていると考えます。

### 今後の展開方針

現在の取り組みを継続し、農場HACCPの認証取得を目指します。また、農場HACCPの認証を取得するとともに、システムを維持・向上させ、高品質で安全な和牛を生産することで、わが国の畜産をより元気にすることをはじめ、より広がりを見せるであろう輸出関連事業にも貢献できるよう、積極的に取り組んでいく所存です。